

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2016

課題番号：25560389

研究課題名(和文)「子どもの安全保障」学の構築

研究課題名(英文) Study on Human Security of Children

研究代表者

勝間 靖 (KATSUMA, Yasushi)

早稲田大学・国際学術院(アジア太平洋研究科)・教授

研究者番号：80434356

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：暴力・貧困・社会的排除の脅威に晒された脆弱な子どもへアプローチするとき「子どもの安全保障」の視角が有効である。第1は「子どもの権利」に基づき、権利保持者である子どもが剥奪された権利を請求できるようなエンパワーメントと、子どもの権利条約の締約国が義務を履行できるような政府の能力強化である。第2に「恐怖からの自由」へ向けて、子どもを暴力から保護するために、二つの選択議定書を基盤とした平和の探求である。第3に「欠乏からの自由」へ向けて、子どもが貧困から抜け出せるように、持続可能な開発目標の達成である。最後に、すべての子どもが「尊厳をもって生きる自由」を享受できるインクルーシブ社会をつくることである。

研究成果の概要(英文)：The perspective of "human security of children" is useful in approaching vulnerable children facing multiple threats of violence, poverty and social exclusion. First, based on children's rights, children as rights-holders should be empowered so that they can claim their deprived rights, and the government of the signatory countries of the Convention of the Rights of the Child (CRC) needs to build its capacities as a duty-bearer to domestically implement the CRC. Second, towards "freedom from fear," children should be protected from violence to achieve peace, guided by the Optional Protocols of the CRC. Third, towards "freedom from want," the Sustainable Development Goals (SDGs) need to be achieved so that children can get out of poverty. Fourth, for "human security of children," it is important to create inclusive society, in which all children will be able to enjoy their right to live in freedom and dignity.

研究分野：開発研究(人間開発)、国際人権論(子どもの権利)、人間の安全保障、グローバル・ガバナンス

キーワード：人間の安全保障 子どもの権利 子どもへの暴力 子どもの保護 人間開発 恐怖からの自由 欠乏からの自由 国際人権

1. 研究開始当初の背景

(1) 「人間の安全保障 (human security)」の概念は、国連開発計画『人間開発報告書 1994 年』を契機に、「国家の安全保障」を補完する概念として国際社会で知られるようになり、政策的にも理論的にも活発に議論されてきた。2012 年 9 月の国連総会決議で、「保護する責任」と明確に区別されたのち、「人間の安全保障」の定義について政策的な合意がみられた。理論的な研究では、いまだに多様な議論があるが、国連加盟国による合意を踏まえ、今後はある程度の収斂が進むと思われる。

(2) 研究代表者は、大学教員になる前に、国連児童基金 (UNICEF) 職員として、子どもの権利の実現へ向けた政策的および実践的な事業に従事していた。メキシコ、パキスタン、アフガニスタンなどのフィールドで、子ども兵士、児童労働、子どもの商業的性的搾取、ポリオやマラリアなどの感染症、女子からの教育アクセスの剥奪などの問題に取り組んだ。その現場での経験から、脆弱な立場に置かれた子どもが直面する脅威は複合的であることを痛感し、人権・平和・開発の三つの領域を統合的にとらえる学際的なアプローチが必要だと認識するようになった。

2. 研究の目的

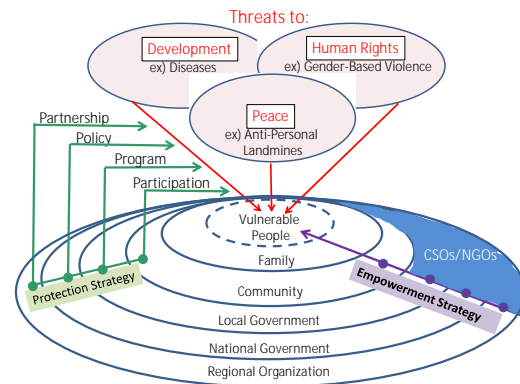
(1) この研究の目的は、「子どもの安全保障」学 (child security studies) を構築することであった。これまでの「人間の安全保障」をめぐる政策的および理論的な発展を踏まえたうえで、人権・平和・開発という三つの領域を統合的にとらえる学際的なアプローチを用い、子どもの安全という課題を分析するためのモデルを提示しようとした。

(2) そして、そのモデルの有効性を実証的に検討するために、国際的な文脈において子どもたちが直面する複合的な脅威を事例として取り上げて、その脅威の現状を把握したのち分析すると同時に、とくに脆弱な立場に置かれた子どもたちの生活環境を分析した。そして、脅威そのものを軽減するための保護戦略と、脅威に対峙する子どもたちの能力を強化するためのエンパワーメント戦略を政策的に位置づけた。

3. 研究の方法

(1) 叩き台として、以下のような「子どもの安全保障」モデル (私案) を例示した。このモデル案について、連携協力者や研究協力者と一緒に初期的なブレインストーミングを行った。同時に、このモデルの有効性を実証的に検証することへ向けて、人権・平和・開発の三つの領域から複数の事例を選択した。こうした個々の事例ごとに「子どもの安全保障」モデルを用いながら、連携研究者と共同研究を開始した。また、フィールドに精

通した国際機関や NGO の実務者に、研究協力者として、現場での具体的な実践を報告してもらった。



(2) 人権・平和・開発の三つの領域において、それぞれの領域における事例研究を総合しながら、「子どもの安全保障」モデルの有効性を検討した。それと同時に、三つの領域にまたがるような総括的な意見交換を行い、研究成果を「子どもの安全保障」学としてまとめるための準備を行った。

(3) 研究会を定期的開催し、代表者、連携研究者、研究協力者のいずれか数名が報告し、参加者全員で意見交換を行った。個々の事例の研究が進むにつれて、代表者と連携研究者は、その中間発表や最終発表を国内外の学会で行い、そこでのコメントを踏まえて、完成度を高めていった。

(4) 早稲田大学アジア太平洋研究センターに設置済みの「開発と人権」研究部会を研究拠点とした。「開発と人権」研究部会では、24年度の研究テーマを「子どもの安全保障 (human security of children)」としており、すでに研究会をスタートさせていた。

4. 研究成果

(1) 「人間の安全保障」の概念の整理を行った。Japan Association for Human Security Studies 3rd annual conference で、Operationalizing the concept of human security in an era of sustainability と題して発表したほか、国際人権法学会 2014 年度研究大会で、「人間の安全保障へ向けた欠乏からの自由」と題して発表した。また、『国際保健医療学 (第 3 版)』の第 1 部第 9 章として「人間の安全保障」を分担執筆した。

(2) 人権の領域に関連した脆弱な子どもについては、人権レジームと、子どもの商業的性的搾取に焦点を絞って研究を進めた。人権レジームに関する研究成果は、アジア国際法学会日本協会第 4 回研究大会において Global and regional institutionalization of human rights in ASEAN and East Asia と題して発表したほか、『グローバル・ガヴァナンス論』、『持続可能社会への転換と法・法律

学』、「ASEAN 人権宣言～採択の背景と今後の課題」を執筆した。次に、子どもの商業的性的搾取に関する研究成果は、『国際関係のなかの子どもたち』の第 13 章として「子ども買春・人身取引・児童ポルノ」を分担執筆した。

(3) 平和の領域に関連した脆弱な子どもについては、武力紛争の影響下にある子どもに焦点を絞って研究した。武力紛争下の子どもに関する研究成果は、シンポジウム「シリア危機～失われた世代にしないために」において「武力紛争下における子どもへの人道支援」と題して発表したほか、日本国際文化学会第 15 回全国大会で、「紛争下の子どもへの人道支援～国際規範と文化」と題して発表した。

(4) 開発の領域に関連した脆弱な子どもについては、日本国際連合学会 2013 年度研究大会において、「国際開発レジームと正義」と題して発表した。次に、教育と貧困という視点から、*Academic Council of the United Nations System 2016 annual meeting* で、*Education as the engine of human rights, sustainable development and global citizenship* と題して発表したほか、『HIV/エイズと教育政策』を翻訳し、解説をつけた。さらに、健康と貧困という視点から、西アフリカのギニアにおいてエボラ出血熱への対応についてフィールド調査を行い、国内外（アメリカ合衆国、英国、スイス、オーストラリア、中国、タイなど）の学会で発表した。そして、*Challenges in achieving the health Sustainable Development Goal: Global governance as an issue for the means of implementation* や *Ebola virus disease outbreak in Guinea in 2014: Lessons learnt for global health policy* などの論文が掲載された。

(5) 「人間の安全保障」の概念の子どもへの応用としての「子どもの安全保障」学の構築へ向けて、一定の成果があった。「子どもの安全保障」の考え方については、『(新版)国際協力論を学ぶ人のために』の第 15 章として「国際協力における子どもを考える」を分担執筆したほか、『人間存在の国際関係論～グローバル化のなかで考える』の第 9 章として「子どもの権利と子どものための国際レジーム」を分担執筆した。今後の計画としては、「子どもの安全保障」学として一冊の図書を刊行することへ向けて、脆弱な立場に置かれた子どもが直面する**複合的な脅威**に関する研究を進めていく。その際、人権・平和・開発の三つの領域における複合的な脅威を統合的にとらえる**学際的なアプローチ**について、脅威そのものを軽減するための**保護戦略**と、脅威に対峙する子どもたちの能力を強化するための**エンパワーメント戦略**をこれ

まで以上に具体的に分析していきたいと考えている。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

Yasushi KATSUMA, Ebola virus disease outbreak in Guinea in 2014: Lessons learnt for global health policy, *Journal of Asia-Pacific Studies*, 査読無、Vol.28、2017、pp.45-51、<http://hdl.handle.net/2065/00052417>

Yasushi KATSUMA, Hideaki SHIROYAMA, Makiko MATSUO, Challenges in achieving the health Sustainable Development Goal: Global governance as an issue for the means of implementation, *Asia-Pacific Development Journal*, 査読有、Vol.23, No.2, 2017, pp.105-125、[http://www.unescap.org/sites/default/files/chapter%206\\_0.pdf](http://www.unescap.org/sites/default/files/chapter%206_0.pdf)

Yasushi KATSUMA, A whole-of-society approach to global health policy in Japan: 'Global Health and Human Security Program' of the Japan Center for International Exchange (JCIE), *Journal of Asia-Pacific Studies*, 査読無、Vol.27、2016、pp.117-124、<http://hdl.handle.net/2065/51582>

勝間 靖, ASEAN 人権宣言～採択の背景と今後の課題、*アジア太平洋討究*, 査読無、Vol.21、2013、pp.39-51、<http://hdl.handle.net/2065/39821>

[学会発表](計 23 件)

勝間 靖, エボラ出血熱への国連による対応の遅れとグローバルヘルス・ガバナンス、国際保健医療学会第 35 回西日本地方会、2017 年 3 月 4 日、神戸大学(兵庫県神戸市)

Yasushi KATSUMA, Rethinking global health governance: Lessons learnt from the Ebola outbreak in West Africa, *2016 Beijing Forum*, 2016 年 11 月 5 日、北京大学国際交流センター(中華人民共和国、北京)

勝間 靖, 紛争下の子どもへの人道支援～国際規範と文化、日本国際文化学会第 15 回全国大会、2016 年 7 月 17 日、早稲田大学(東京都新宿区)

Yasushi KATSUMA, Education as the engine of human rights, sustainable

development and global citizenship、*Academic Council of the United Nations System 2016 annual meeting*、2016年6月18日、Fordham University (アメリカ合衆国、ニューヨーク)

Yasushi KATSUMA、The G7 and the SDGs: What role for think tanks?、*2016 World Health Summit*、2016年4月19日、Geneva International Conference Centre (スイス、ジュネーブ)

Yasushi KATSUMA、Global governance for health: Protecting vulnerable people from infectious diseases in countries with weak health systems、*2016 Australasian Aid Conference*、2016年2月10日、Australia National University (オーストラリア、キャンベラ)

Yasushi KATSUMA、Global governance for health: Protecting vulnerable people from infectious diseases in countries with weak health system、*2015 North-East Asia Development Cooperation Forum*、2015年10月31日、JICA 研究所 (東京都新宿区)

Yasushi KATSUMA、Model 3: The executive agency model、National Academy of Medicine-Institute of Medicine *Global Health Risk Framework: Governance for Global Health*、2015年9月2日、Wellcome Trust (英国、ロンドン)

Yasushi KATSUMA、Challenges in global health governance、*2015 Prince Mahidol Award Conference*、2015年1月28日、Bangkok Convention Center (タイ、バンコク)

Yasushi KATSUMA、The post-2015 development agenda: Potential areas of joint action by northeast Asian countries、*14<sup>th</sup> East Asian Seminar on the UN System*、2014年12月14日、同志社大学 (京都府京都市)

勝間 靖、人間の安全保障へ向けた「欠乏からの自由」、国際人権法学会 2014 年度研究大会、2014年11月12日、広島大学 (広島県広島市)

勝間 靖、武力紛争下における子どもへの人道支援、シンポジウム「シリア危機～失われた世代にしないために」、2014年5月17日、国連大学ウ・タント国際会議場 (東京都渋谷区)

Yasushi KATSUMA、A human security approach to health: Putting people first in the multi-sectoral and multi-stakeholder global human development agenda、*Global Health Series Forum*、2013年11月1日、Cathay Financial Conference Hall (台湾、台北)

Yasushi KATSUMA、Operationalizing the concept of human security in an era of sustainability、*Japan Association for Human Security Studies 3<sup>rd</sup> annual conference*、2013年9月22日、慶應義塾大学 (神奈川県藤沢市)

勝間 靖、国際開発レジームと正義、日本国際連合学会 2013 年度研究大会、2013年6月29日、関西学院大学 (兵庫県西宮市)

Yasushi KATSUMA、Global and regional institutionalization of human rights in ASEAN and East Asia、アジア国際法学会日本協会第4回研究大会、2013年6月23日、東洋大学 (東京都文京区)

〔図書〕(計13件)

勝間 靖 他、世界思想社、(新版) 国際協力論を学ぶ人のために、2016、416

勝間 靖 他、成文堂、持続可能社会への転換と法・法律学～Law and Sustainability、2016、368

勝間 靖 他、法律文化社、平和と安全保障を考える事典、2016、701

勝間 靖 他、晃洋書房、国際関係のなかの子どもたち、2015、267

勝間 靖 他、法政大学出版局、人間存在の国際関係論～グローバル化のなかで考える、2015、336

マイケル・ケリー、勝間靖 (訳・解説)、東信堂、HIV/エイズと教育政策、2015、102

勝間 靖 他、国際開発ジャーナル社、国際協力用語集 (第4版)、2014、353

勝間 靖 他、丸善出版、世界民族百科事典、2014、789

勝間 靖 他、法律文化社、グローバル・ガヴァナンス論、2014、314

勝間 靖 他、東信堂、国際共生とは何か

～平和で公正な世界へ、2014、219

勝間 靖 他、法律文化社、平和を考える  
ための100冊+、2014、285

勝間 靖 他、杏林書院、国際保健医療学  
(第3版)、2013、271

勝間 靖 他、法律文化社、映画で学ぶ国  
際関係 II、2013、209

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

勝間 靖 (KATSUMA, Yasushi)

早稲田大学・国際学術院 大学院アジア太  
平洋研究科・教授

研究者番号： 80434356